

## 物流用途の画像処理関連機器・システムの世界市場を調査

—2025年予測（2019年比）—

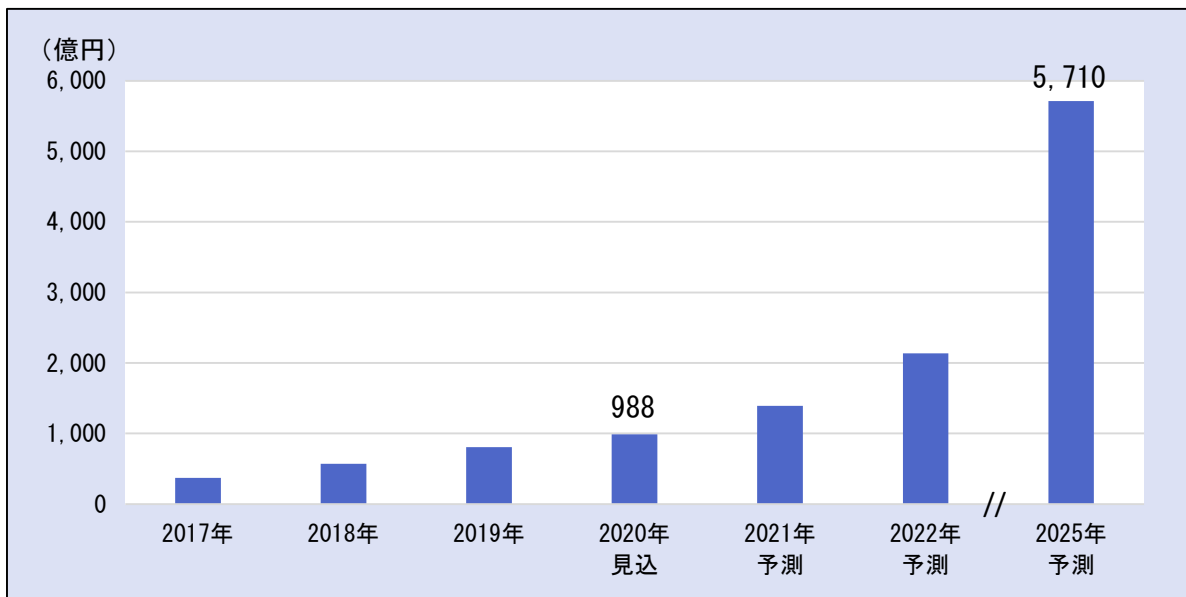
- 物流用途の画像処理関連機器・システム8品目の世界市場 5,710億円（7.1倍）  
 ～巣ごもり消費に伴うEC利用増や工場の省人化ニーズの加速などにより市場は急拡大～
- 物流向け画像処理方式固定型コードリーダー市場 230億円（2.6倍）  
 ～Amazonを始めとするEC企業などが物流拠点のデジタル化を急速に進めており、採用が増加～

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811）は、ECの利用増に伴う物流量の増加や人手不足の深刻化などにより自動化ニーズが高まり、需要が増加している物流用途の画像処理関連機器・システムの世界市場を調査した。その結果を「[Logistics Vision Systemの市場実態と将来予測](#)」にまとめた。

この調査では、物流向け画像処理関連機器・システム8品目の市場を調査・分析し、将来を展望した。そのほか、各品目におけるAIの活用状況・方向性や主要物流向け画像処理関連メーカーの動向などもまとめた。

### <調査結果の概要>

#### ■物流用途の画像処理関連機器・システム8品目の世界市場



人手不足が深刻化している物流業では自動化ニーズが高まっており、画像処理技術を活用した機器・システムの需要が増加している。中でも、ビジョン活用型AGVの規模が大きく市場をけん引している。2018年、2019年と二桁伸長した品目が多くみられ、2020年の市場は新型コロナウイルス感染症の影響により伸びは鈍化するものの、2019年比22.3%増の988億円が見込まれる。2021年以降はすべての品目で二桁伸長が続き、特に、倉庫内ドローン用マシンビジョンカメラや物流向けロボットビジョンシステムが高い伸びを示すとみられる。巣ごもり消費に伴うECの利用増で物流量が増加していることや、工場の省人化ニーズの加速などにより、市場は急拡大が期待される。

<注目市場>

●物流向け画像処理方式固定型コードリーダー

2020年見込	2019年比	2025年予測	2019年比
96億円	106.7%	230億円	2.6倍

コンベア上にガントリーを設置し、固定して使用する物流向けのコードリーダーを対象とする。

一般的なコードリーダーはハンディターミナルが多いが、画像処理技術を活用したコードリーダーは高速かつ精度の高い読み取り性能を活かすため、固定型が中心である。

画像処理システムにおけるコードリーダーの活用は現状少ないものの、Amazonを始めとするEC企業などが物流拠点のデジタル化を急速に進めており、今後採用が増加することで大幅な市場拡大が予想される。

<調査対象>

・物流向け画像処理方式固定型コードリーダー	・画像認識活用型物流システム
・物流向け画像処理装置	・ビジョン活用型AGV
・スマートフォン活用型画像センサー	・物流拠点向け4Kカメラ
・物流用ロボットビジョン	・倉庫内ドローン用マシンビジョンカメラ

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入企業および関連企業・団体などへのヒアリングおよび関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間>

2020年5月～6月

以上

資料タイトル	： <a href="#">「Logistics Vision Systemの市場実態と将来予測」</a>
体裁	：A4判 47頁
価格	：PDF版 300,000円+税 ネットワークパッケージ版 450,000円+税
発行所	：株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通 TEL：03-3664-5811（代） FAX：03-3661-0165 URL： <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a> e-mail：info@fuji-keizai.co.jp
調査・編集	：インダストリアルソリューション事業部
この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL： <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/press/">https://www.fuji-keizai.co.jp/press/</a>	